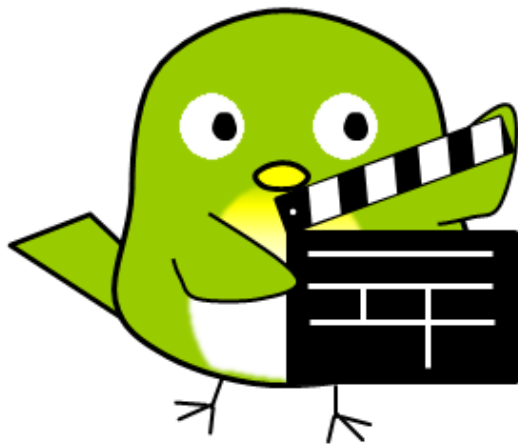


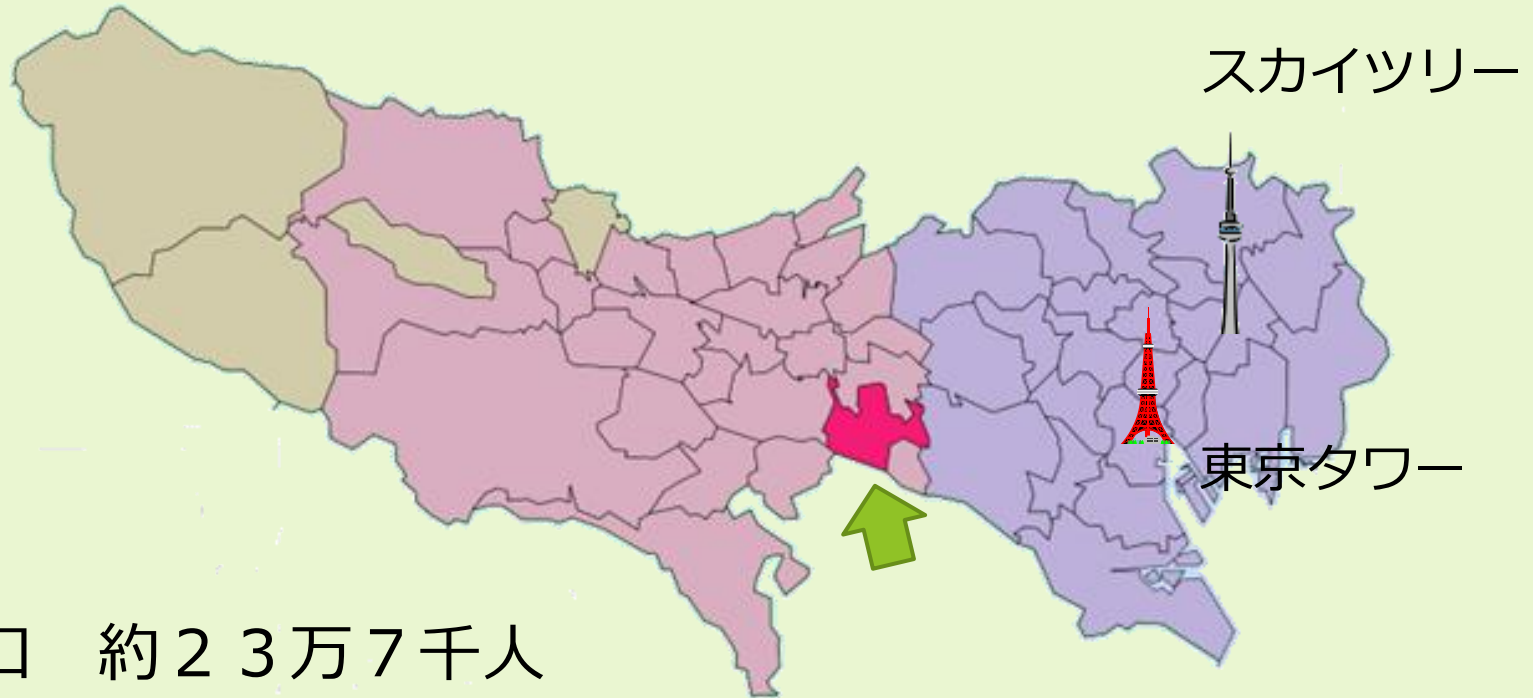
映画のまち調布と 映画資料室



調布市立図書館
公式キャラクター じろ

調布市立図書館
越路ひろの

調布市はここに 있습니다



- 人口 約23万7千人
(令和2年5月現在)
- 予算 約930億円
(令和2年度)

東京都

調布市はこんなところです



味の素スタジアム



深大寺



ゲゲゲの鬼太郎の作者
水木しげるさんが
名誉市民です。



角川大映スタジオ



多摩川



日活撮影所



武者小路実篤記念館



図書館
(緑は中央図書館)

映画のまちのはじまり



1932（昭和7）年

京都の映画会社（東活映画）から派遣された撮影技師の本多嘉一郎氏。
撮影所候補地として**調布**を視察

「**水澄み、時代劇、現代劇に最適なり**」

との電報を本社へ打つ



1933（昭和8）年

日本映画株式会社が
調布に多摩川撮影所を設立！



この時視察に来た
本多嘉一郎氏は
後に第4代調布市長を
務めました

1934（昭和9）年

日本映画(株)は数本の映画製作の後倒産。

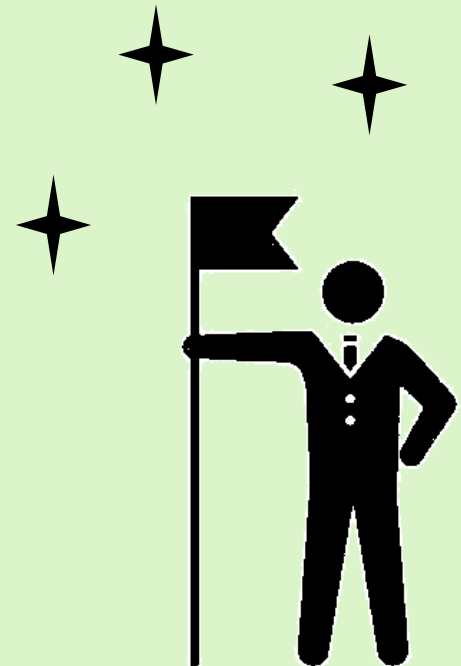
関東大震災で被災した向島撮影所に代わる場所を探していた

日本活動写真株式会社が多摩川撮影所を買収。

日活の現代劇部が京都から移転し、

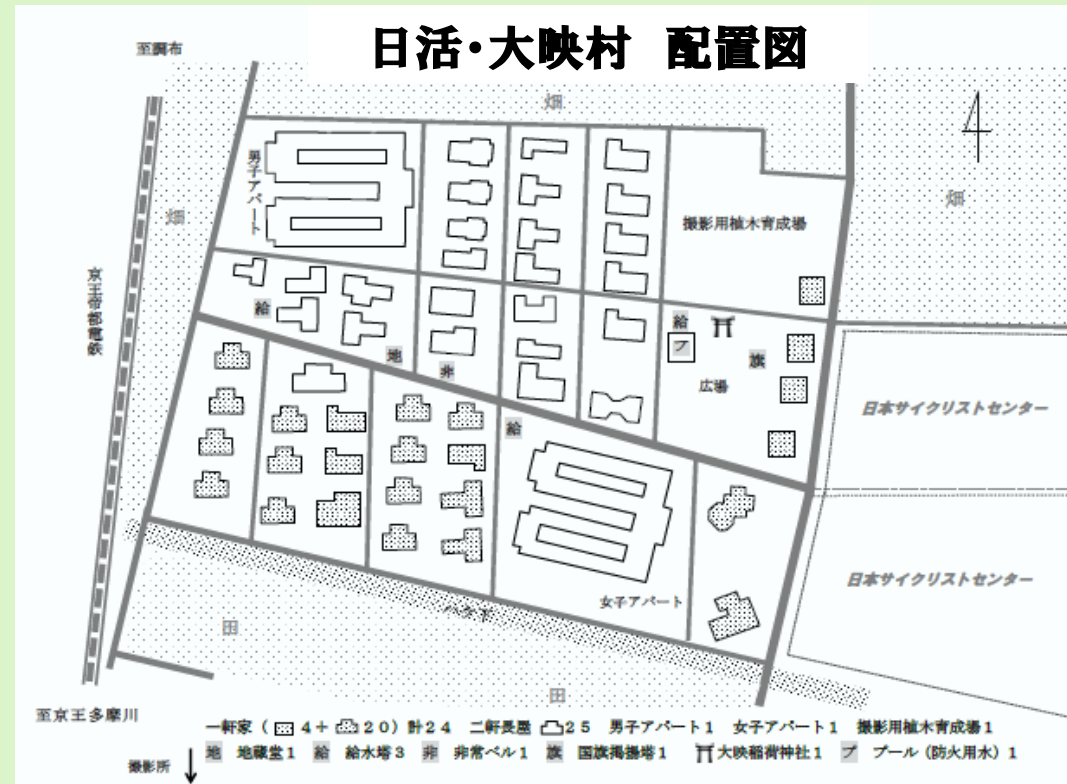
日活多摩川撮影所が

開設されました！



移転に伴い、
スタッフ（田坂具隆、内田吐夢監督 等）、
俳優（小杉勇、島耕二 等）、
映画関連会社（高津装飾美術等）も調布に引越し、出店。
 撮影所の周囲には多数の映画関係者が移住し、
 村のような規模の日活社宅（2千坪）もできました。

映画『花嫁日記』（昭和9）日活より
建築中の女子寮



その後の多摩川撮影所は…

昭和8(1933)年
多摩川撮影所
(日本映画(株))

昭和9(1934)年
日活多摩川撮影所

日活
劇場・興業部門

昭和29(1954)年～
日活撮影所

国策により
日活製作部門+新興キネマ+大都映画
→大日本映画製作株式会社(大映)へ

昭和17(1942)年
大映東京第二撮影所

平成16(2004)年～
角川大映スタジオ

調布はかつて「東洋のハリウッド」と呼ばれていた時期がありました。



日活撮影所 「182ch」HPより

撮影所の中に銀座の街並み↓

『映画のまち調布ガイドブック』より



中央映画撮影所

「市民の手によるまちの資料情報館」HPより



大映東京撮影所

『大映十年史』より



角川大映スタジオ



日活調布撮影所



高津装飾美術株式会社

『ALWAYS 三丁目の夕日』等

多数の映画・映像関連企業が 市内で活動しています

他にも色々な
企業があります！

40社程度 ✨



(株) 東京現像所
『男はつらいよ』等



東映ラボ・テック(株)



(株)白組



(株)マーブリング
ファインアーツ

調布市の映画関連イベント

～つくる・楽しむ・学ぶ～



高校生

フィルムコンテスト in 映画のまち調布

高校生が制作した映画・映像
作品のコンテスト



はじめての 映画撮影教室！

日活調布撮影所協力の元、
「撮影」「照明」「録音」の講師を招き映画撮影の基本から学ぶことができる



「みる」母と子の 映画寺子屋上映会

育児などで忙しく、なかなか
ゆっくり外出できない親子向け
上映会。市民団体主催

映画のまち調布 シネマフェスティバル

- ・ 映画映像関連企業・団体と連携
- ・ 映画のまち調布賞
- ・ 映画上映会
- ・ 展示・ワークショップ など

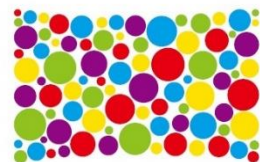


映画のまち調布賞 授賞式

※市民の人気投票で選ばれた作品の中から、映画関係者が技術賞を選定



調布市文化・コミュニティ振興財団提供



映画のまち調布
シネマフェスティバル
2020

2020/2/14～3/8

1/10スケール羅生門展示
(日本映画・テレビ美術監督協会)



出張！映画資料室

～「映画のまち調布」のはじまり
旧日活・大映村と映画「花嫁日記」～

2月29日(土)～3月8日(日)
10:00～19:00
調布市文化会館たづくり2階
南ギャラリー 入場無料

「映画のまち調布」と旧日活・大映村
映画「花嫁日記」(日活トーキー第1作)の上映
(ほか)

昭和の調布にあった、
映画人たちが大活躍ら
していた旧日活・大映村。
今回は旧日活・大映村を
主なテーマにその時代に
関連した作品のポスター、
台本等貴重な資料を
多数展示します。

旧日活調布所と日活村(昭和9年築)
旧日活・大映村の会館提供

調布市立図書館 042-441-6181

図書館展示

調布市立図書館の概要

※ 統計類は平成31年度

- ▶ 蔵書数 約 1 3 8 万 4 千冊
- ▶ 利用登録者数 約 8 万 7 千人
- ▶ 貸出冊数 約 2 3 8 万 3 千冊／年
(映画資料 約 8, 2 0 0 冊／年)

中央図書館

- ▶ 開館 昭和 4 1 (1966) 年※ 平成7年に現在地に移転
- ▶ 床面積 約 4 7 0 0 m²
- ▶ 入館者数 約 5 5 万 6 千人／年
(一日平均 2, 0 0 0 人来館)
- ▶ 職員数 4 0 人

※常勤職員。うち司書有資格者 2 6 人。他に非常勤職員約 1 0 0 人

映画資料室

昭和63（1988）年頃 中央図書館移転に際し「地域の特色を活かした蔵書を」と映画関係図書の収集を計画

→新図書館の目玉にしたい！

平成7（1995）年

新・中央図書館開館と同時に

映画資料室開室✧

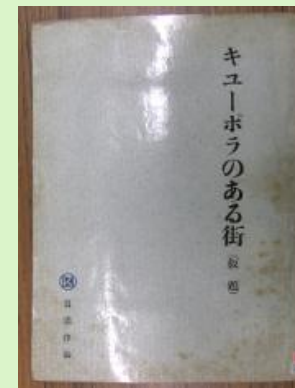


閉架書庫



書籍 約33,000冊

- ・ 映画関連書籍
- ・ 撮影台本 約1,000種類
- ・ パンフレット 約2,300種類



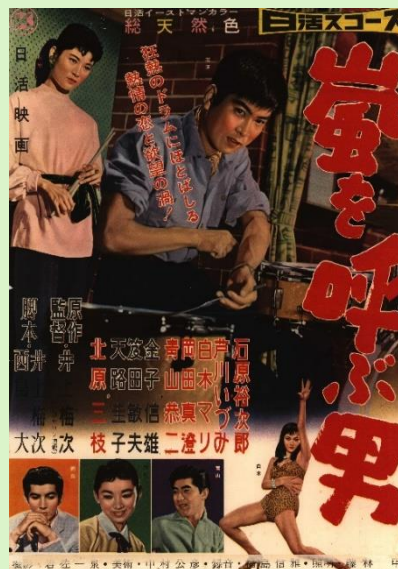
雑誌

約14,000冊
(約115タイトル)

- ・ 『キネマ旬報』 (第1号1919年～欠号あり)
- ・ 『映画の友』 (1931～1968年)
- ・ 『シナリオ』 (1946年～)
- ・ 『日活』 (1927～1940年)など



ポスター 約3,000種



館内でデジタルデータを
閲覧できます

チラシ 約16,000種



スチール写真 約6,200枚
(約1,100タイトル)



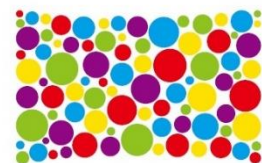
『嵐を呼ぶ男』

ロビーカード 約1,800枚



『赤い夕陽の渡り鳥』

図書館の展示

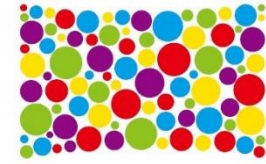


映画のまち調布
シネマフェスティバル
2020

出張！映画資料室

～「映画のまち調布」のはじまり
旧日活・大映村と映画「花嫁日記」～





映画のまち調布 シネマフェスティバル 2020

図書館の展示 2

(上映作品を全館でコラボ展示)



調布市立図書館の「映画資料室」

① 図書館の資料室として、一般書と併せて気軽に
映画資料の閲覧・貸出、調べものができる

② 「映画のまち調布」の資料室として様々な形
態の**映画資料**を閲覧することができる

③ 映画映像関連企業と連携している
(イベント実施・資料寄贈・調査協力)

映画資料室の課題

収蔵資料を基礎とし、
さらなる収集及び活用を推進していくために

- ▶ データの整理・資料保存・著作権等
専門知識を習得したスタッフの育成
- ▶ 継続的な資料収集・長期保存処理・利
用促進のための資料整理の予算の獲得
- ▶ 資料増加に伴う保存スペースの確保

